



みてみて保育実施報告

桜の宮こども園

みてみて保育とは、日常の保育活動を法人内でお互い見学し、その後、意見交換を行う事により、保育の質の向上や専門性向上を目指す研修方法です。

令和7年7月17日(木)・令和8年1月27日(火) 9:30~15:00

ねらい

- ・現場の困り感を吸い上げ、教育保育の現状を把握し、今後の取り組みの視点を検討
- ・実践を共有し合うことにより、新たな気づきや互いの保育を振り返る
- ・様々な視点から見る、保育内容の充実や環境整備の在り方を考える

活動内容

- ・登園時の様子や合同活動の様子を観察する。
- ・実践を共有したり、保育に参加する。
- ・各クラスの指導案に記載の「現在困っていること」に着目し、保育内容を観察しながら今後の取り組みの視点を検討する

参加者からの評価

- ・環境構成がとても工夫されており、自由あそびもとても落ち着いて過ごしていた。
- ・手作り玩具も多く、年齢に合った工夫がされていた。また、玩具棚も片付けがしやすく工夫されており、子どもたちも自主的に片づけをしていた。
- ・乳児・幼児共に移動の際などは連携をしっかり取り、スムーズに行っていた。
- ・乳児の着替えやトイレなど、個々に合わせてゆったりと行っていて家庭的な雰囲気を感じた。
- ・活動の内容を変える時に机の移動の仕方を考えてもいいかと感じた。

今後に向けて

- ・保育環境の整備について、職員全体で意識を共有し、安心・安全な生活環境の維持と意識の継続、向上に努める。
- ・子どもを真ん中に置いた保育を軸に置き、ねらいを明確にした計画立案や振り返りを行い、PDCAサイクルによる実践の質の向上に努めていく。